

- ◎研究主題 「言葉を通して、豊かな未来を創造する国語科の学び」
○実践課題① 児童生徒自らが学びの主体となるための「問い」を生み出す単元・授業づくり
○実践課題② 創造性の発揮に寄与する「学びのつながり」を意識した単元・授業づくり

【書 写】分科会

2025年1月25日(土)
東栄中学校 石川 容子

- 「生徒の願い」を生かしたい
「うまくなりたい」、「整った文字が書けるようになりたい」、「学習が日常で活用できた」
- 手書きの文字を大切にしたい
・生徒の気持ち 手書きの特別感 → どんなときに手書き → 誰かのために・誰に伝える
・「行書」ってどんなときに書く? どんなときに書きたい?
- 文化の価値を生徒が見極め・理解する力をつけたい
- 誰でも指導しやすい書写の授業を提案したい
・QRコードの活用
・ICTの活用 日常の授業での活用。変容を捉え、交流する。
これまでは、画像に残す・比較する、などで活用することが多かった。
- 毛筆学習を確実に硬筆に生かすという意識をもって指導したい
- 「可視化」・「実感」・「次へのモチベーション」

- 手書き文字を日常に取り入れる、身に付けた知識・技能を生活に生かす
○文字文化を伝えていく

授業者 酒井 李果 (宮の丘中学校)
提言者 小椋 千寿子 (厚別北中学校)

I 授業について

◎行書の学習にあたって

行書は、中学1年生で初めて学習する。教科書は、文字の変遷を学習し、楷書と行書とを視覚的に比較しわかりやすく学習できるように配置されている。行書は速書きに適した書体であること、曲線的、柔らかさ、丸味が特徴であること、点画の変化、連続、省略、筆順の変化などの特徴を理解して学習をする。出来上がった形だけにとらわれず、他の文字に応用できる筆づかいや整え方を学ぶことが重要である。

2年生の授業では、1年生から学習してきた行書の原理・原則をもとにして、実際にふだんの生活の中で使用できることを実感できる場面を設定していきたい。

生徒は、ただ速く書けば行書になるととらえ違いしやすい。「読みやすく」書くことは欠かせないという点に注意して指導していく。

美しい文字、正しい文字を理解する力、見る目を養うためには、1年生から継続してどのように指導していくか、2年生では、20時間という限られた時間で計画的に行っていく。

[授業の構想]

- ・毛筆学習 ～運筆、筆づかい、筆の弾力～
 - ・自作動画、教科書ORコード などを使用して視覚的に効果的に
 - ・ICTの活用により、個別の指導の時間が生み出せる。
- ・行書の知識・技能を身に付ける。
- ・書写の時間の交流の仕方を定着させる



「行書」を生活の中で生かす ～学習したことを生かそう～

- ・誰に、どんなことを伝えるために書くのかを明確にする。
 - 1 暑中（寒中）見舞い、年賀状を書く（郵便局から提供されるハガキを使用した学習）
 - 2 学校、地域に関わるポスターを作る
- ・ICTの活用 画像生成アプリなどを用いる（配置、背景、色など）

II 提言について

◎1年生 「自分の名前を行書で書こう」

担当する1学年生徒を対象に、文字に関する意識調査を行った。（別紙 アンケート結果）

自分の名前を一日に何回書くだろうか。丁寧に書きたいと思っても、実際には一点一画を意識しながら書くことは少ないだろう。アンケート結果「文字を上手に書きたい」という生徒の願いを生かし、一番身近な自分の「名前」を行書で書く活動を設定した。

アンケートの結果をみると、「④文字を上手に書きたい」と思っている生徒は全体の86%と非常に高く、「⑤どんなときに上手く書きたい」と思うかの質問には、「いつも」と答えた者もいるが、多くは「字を人に見られる」場面にまとめられる回答になっている。学校生活の中で身近な「ノート」「提出物」「作文」等を挙げているものが多いが、「高校入試」や「テスト」のように正確さが求められる場面を挙げている者もいる。また、「願書」や「手紙」「年賀状」のように大事な場面、特別な場面や自分の気持ちを伝える場面を挙げている者もいる。

そこで、1年生の行書学習の終わりに、「自分の名前を行書で書く」授業を行った。自分の名前は、どんな場面でも書く可能性があるため、生徒の「上手く書きたい」という気持ちを生かし、意欲を継続できる学習課題であると考えた。

- ・「お手本ソフト」で作成した生徒氏名を渡し、点画を意識して練習する。
- ・ふだん自分が書いている文字とどのように違うか考える。
- ・毛筆で書くことで、日常使用する硬筆の持ち方を確認できる。
- ・漢字の組み立てを考える。
(・自分で氏名の一文字を調べ、お手本ソフトとの相違点について考える。)

学習の振り返りから

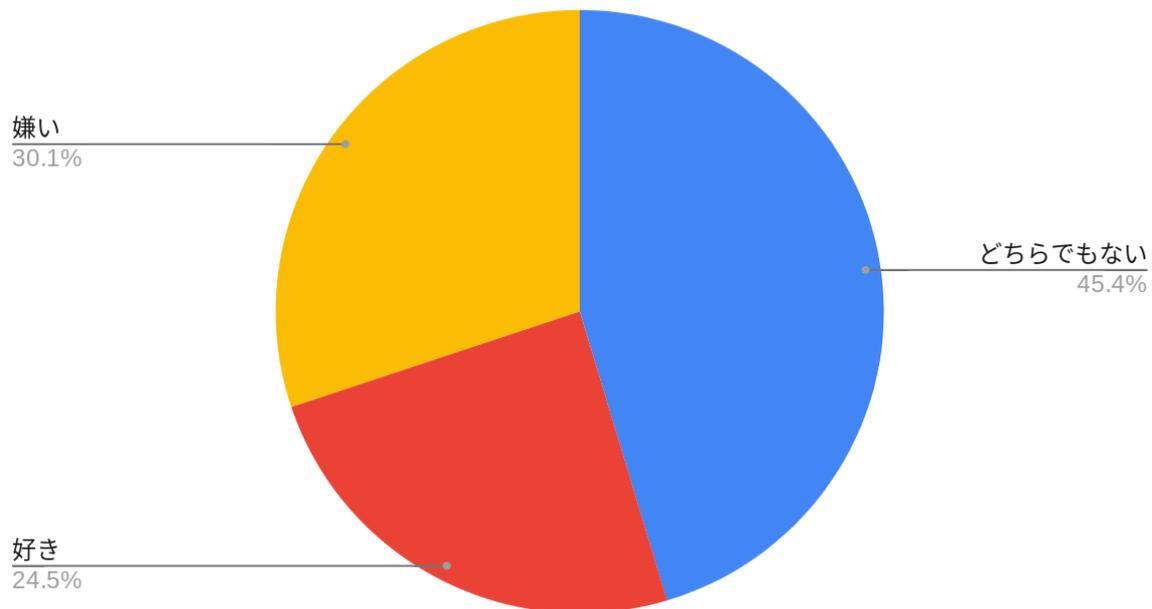
学習の振り返りの記述から、「行書体は字を上手に書きたいときに使えそうだった」と、行書自体に「上手さ」を感じている生徒がいることがわかった。また、「行書体で書くと、速く書いても美しく書けることもわかったので、プリントに書くときにも使っていきたい。」と、行書が「速く書ける」書体であることを理解し、書写の授業で学んだことを日常的に生かしていこうとする姿勢がみられた。

書写の授業で学習したことが生かされて、自分の名前だけでも上手く書けるようになったと実感すれば、他の字も上手に書きたいと思うようになるだろう。書写の授業だけでなく、他の教科やその他の活動においても、意識して文字を書くようになるのではないかと考える。

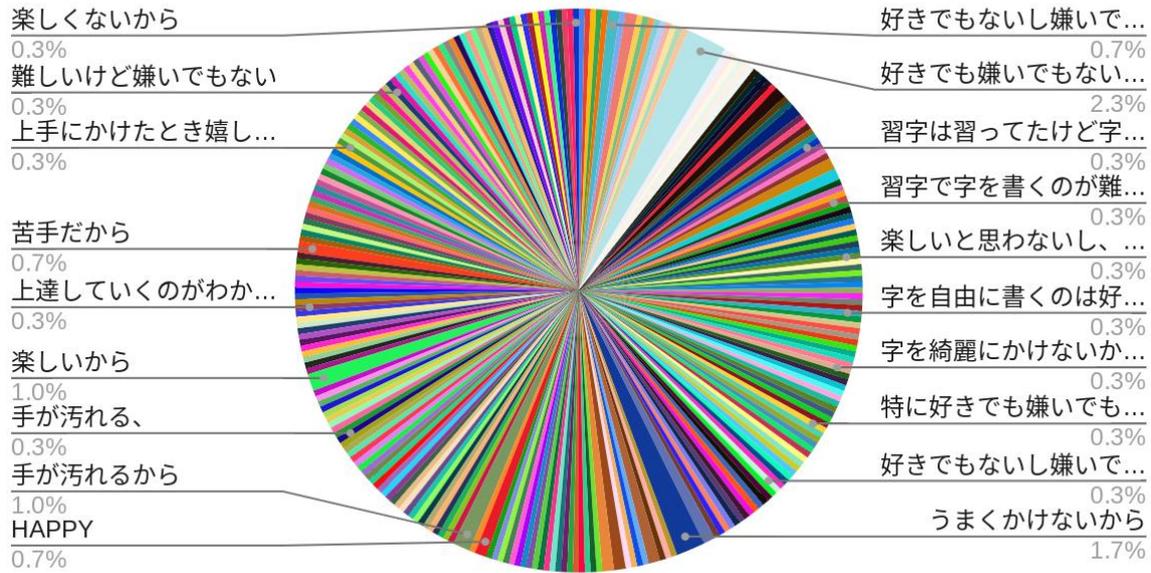
- ✓国語の授業で … 漢和辞典を使って、漢字の成り立ちや意味を学習する。
漢字の組み立てを学習する。
- ✓行事で … 卒業する3年生へ
- ✓校内で・地域で … ポスター、校内（地域）の表示など

【書写アンケート結果】

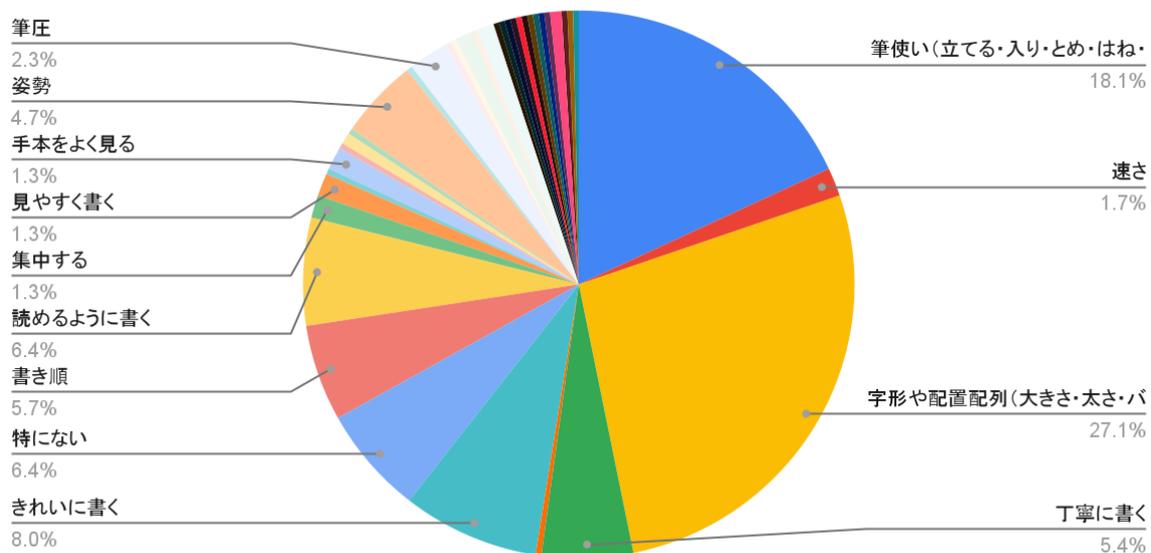
「① 書写の学習は好きですか。」のカウント数



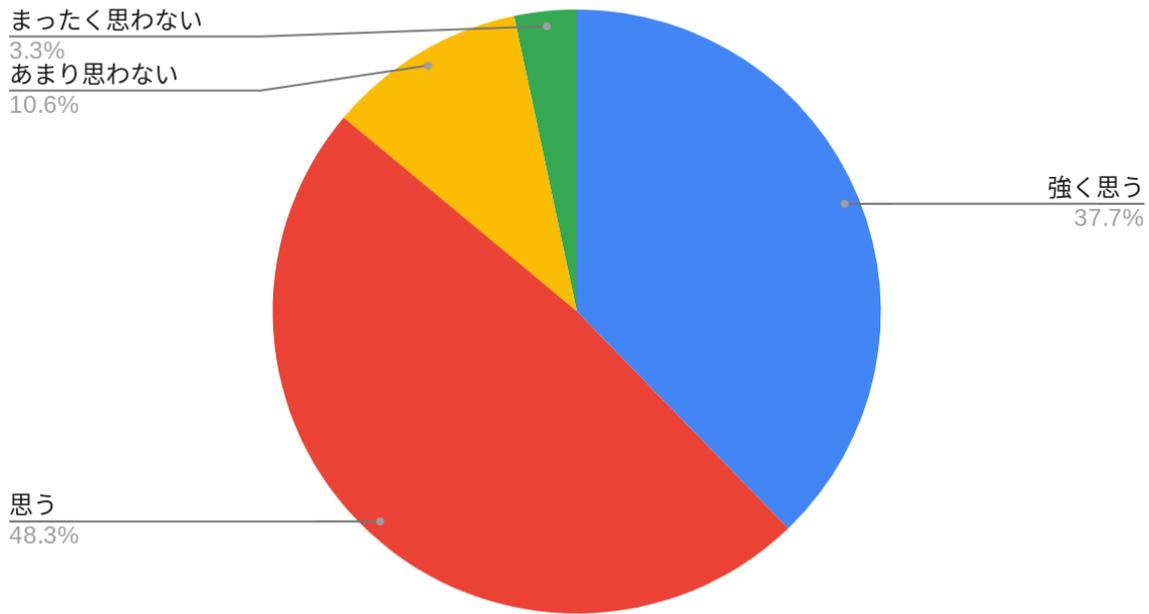
「②
①のように答えた理由を記入してください。」のカウン
ト数



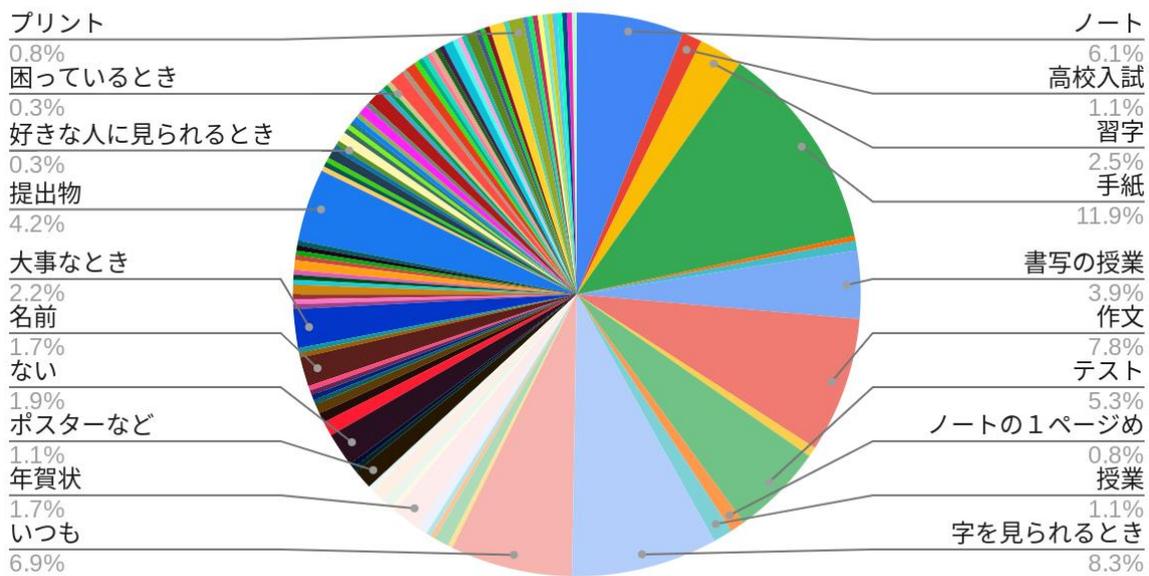
「③文字を書くときに気をつけていることはなんですか。」のカウン
ト数



「④ 文字を上手に書きたいと思いますか。」のカウント数



「⑤ どんなときに文字を上手に書きたいと思いますか」のカウント数



⑥ 書写の時間にごんばりたいことを選んでください。

302 件の回答

